

DU PONT®

The miracles of science™

確かな防除で、納得の作物づくりへ。 みんなが認める生産をサポート。

- ねぎの問題害虫に卓効
- 収穫前日まで使用でき、速やかな摂食活動阻害による作物保護
- 優れた浸透性と移行性及び耐雨性



野菜散布用殺虫剤

デュポン™

ベネビア®

powered by
CYAZYPYR®

OD



万能ねぎ

ねぎの問題害虫に卓効

ねぎの問題害虫であるネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウに高い効果を示します。

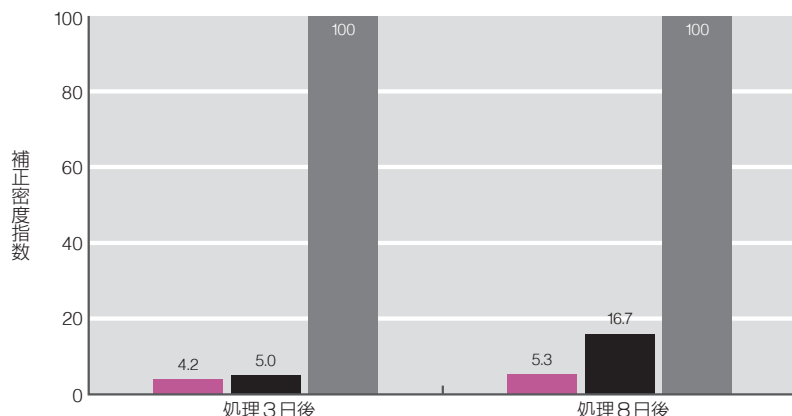
収穫前日まで使用でき、 速やかな摂食活動阻害による作物保護

主に害虫の摂食により薬剤が虫体内に取り込まれ、速やかに摂食活動を停止させます。

優れた浸透性と移行性及び耐雨性

葉面浸透性と局所的な移行性を持つので害虫の食害部まで有効成分が到達し、より効果的な防除ができます。また、この効果により優れた耐雨性を示します。

● ねぎ／ネギアザミウマに対する効果



平成22年 鳥取県農林総合研究所園芸試験場

【試験概要】

品 種：吉蔵
定 植：5月7日
区 制：1区 4.8㎡ 240株 3区制
処 理 日：6月22日
発生程度：中発生
処理方法：動力式噴霧器で200ℓ/10aの薬液を散布。
調査方法：各区とも1区3ヶ所、計30株を選び、寄生する成幼虫数を調査。
考 察：本剤は対照薬剤と比較して効果が高く、無処理と比較して効果は認められることから、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

■ ベネビア®OD 2000倍 ■ 対照A剤 1000倍 ■ 無処理

■ 適用害虫と使用方法 (抜粋)

2015年6月24日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ねぎ	シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)

その他の適用作物：キャベツ、はくさい、だいこん、ブロッコリー、トマト、きゅうり、レタス、いちご、えだまめ、だいず、かんしょ、ばれいしょ、かぼちゃ、だぼこ

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬および銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマトに使用する場合、ストロビルリン系薬剤を含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください(薬害)。
- 本剤は展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤を加用しないでください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与える恐れがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にからないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

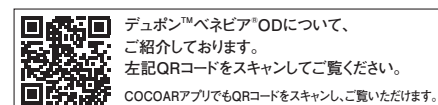
グループ	28	殺虫剤
------	----	-----

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、デュポン™ベネビア®ODまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

- (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト
[<http://www.irac-online.org>]
- (2) デュポン株式会社ウェブサイト
「デュポン 抵抗性」で検索



●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記載しましょう。